



2025年5月26日
日本水素エネルギー株式会社
川崎重工業株式会社
大成建設株式会社
東亜建設工業株式会社

液化水素サプライチェーン構築に向けた商用化実証における国内基地 建設工事着工

日本水素エネルギー株式会社（以下「JSE」）は、世界初の国際水素サプライチェーンの国内基地について、川崎重工業株式会社（以下「川崎重工」）を代表企業とし、大成建設株式会社（以下「大成建設」）、東亜建設工業株式会社（以下「東亜建設」）の3社で形成される共同企業体に発注し建設工事に着工したことをお知らせします。

この国内基地は、JSE が幹事会社として実施する、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下「NEDO」）グリーンイノベーション基金事業に採択された「液化水素サプライチェーンの商用化実証」^{※1}（以下「本プロジェクト」）の一環として実施するものです。本プロジェクトでは、今回の国内基地（出荷/受入両機能を含む）ならびに今後建造する液化水素運搬船を用いて、上流から下流まで国際水素サプライチェーンとしての性能、安全性、耐久性、信頼性、経済性等の商用化に求められる要件を2030年度までに確認します。そのため、この国内基地は、液化水素貯蔵タンク（貯蔵容量5万m³）、海上荷役設備（出荷/受入両機能を含む）、水素液化設備、水素送ガス設備、液化水素ローリー出荷設備を備えた、世界初の商用規模の施設となります。

建設地は、JFE グループの土地利用構想「OHGISHIMA2050」において「カーボンニュートラルエネルギーゾーン」に設定されている川崎市扇島東部の一角であり、JSEとJFEホールディングス株式会社ならびにJFEスチール株式会社の合意（2024年7月25日）に基づき、2025年4月30日に土地賃貸借本契約を締結するとともに土地引渡しを受けて、建設工事に着工したものです。なお、着工に際し、2025年5月23日に安全祈願祭を執り行いました。

JSEは、本プロジェクトを完遂後、海外で製造された液化水素を今回建設する国内基地で受け入れ、国内需要家へ供給することで、水素サプライチェーンの社会実装を推進していきます。そのため、この国内基地は世界初の商用規模の施設として、重要な拠点となります。本プロジェクトと並行して、JSEは、川崎市の「川崎カーボンニュートラルコンビナート構想」、「JFEスチール株式会社東日本製鉄所京浜地区の高炉等休止に伴う土地利用方針」、「川崎港港湾計画」、ならびにJFEグループの「OHGISHIMA2050」等、様々な構想や企業と連携することで、地域、日本の脱炭素に貢献していきます。

【安全祈願祭の様子】



(写真左より、大成建設 横浜支店長 島伸一、JSE 代表取締役社長 原田英一、川崎重工 執行役員 尼子元久、東亜建設 横浜支店長 堀越研司)

【国内基地の完成イメージ】



※1 グリーンイノベーション基金は、2020年12月25日に経済産業省が関係省庁と策定した「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」に基づき造成されたものです。その中で、本プロジェクトは、カーボンニュートラル実現に重要なエネルギーキャリアである、液化水素の大規模サプライチェーン実証を行うものです。政府関係府省庁が一体となって2023年6月6日に改定した「水素基本戦略」に沿って、水素の大量消費社会を見据えた水素サプライチェーンの本格的な社会実装を目指します。

本件に関するお問い合わせ先
日本水素エネルギー株式会社
広報 TEL: 070-1550-7543